

会議要旨書

会議名	第5期三鷹市生涯学習審議会第2回定例会 第34期三鷹市社会教育委員会議第2回定例会
日 時	令和7年10月23日(木) 18時30分～20時30分
場 所	生涯学習センター ホール
出席委員 (16人)	田中雅文 矢崎喜美子 斎藤智志 廣瀬圭子 三橋優子 生田美秋 間部豊 塚田明美 植田幾代 丸岡近賀子 進邦徹夫 藤橋初美 松田秀穂 加藤綾 子 高橋千恵 尾又一実
欠席委員 (4人)	山口和昭 内田直子 東山昌央 青木睦
行政職員 (8人)	スポーツと文化部長 大朝摶子 スポーツと文化部調整担当部長・スポーツ推進課長 平山寛 教育部調整担当部長・総務課長 寺田真理子 生涯学習課長 八木隆 生涯学習課生涯学習係長 森宏樹 同主任 斎藤満里奈
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	0人
開会	
1 委嘱式	委嘱状の交付を行った。
2 委員紹介	委嘱委員及び前回欠席した委員の自己紹介を行った。
3 会議	事務局より委員の出席状況、傍聴者の有無、会議要旨の公開について報告し、配付資料の確認を行った。
4 議題	(1) 自主グループ講師派遣事業等の講師等変更について 【事務局】令和7年4月22日に開催した定例会において、委員から意見を伺い、派遣団体の決定を行った。その後、自主グループから変更申請があったため、実施要領の規定に基づき、改めて社会教育委員の意見を伺うものである。 【会長】三鷹市の場合は、毎年4月にまとめて承認を行うため、講師の都合等により年度途中で変更を余儀なくされる場合がある。その際、変更理由や方法が不適当と判断される場合には

意見を述べ、再考を求めることがある。今回はその適否を確認するものである。

ご意見やご質問はあるか。

～意見なし～

(2) 今期の三鷹市生涯学習審議会・三鷹市社会教育委員会議の今後の進め方について

生涯学習課長より今後の進め方について説明を行った。

【会長】現行の生涯学習プラン 2027 に対する意見を述べるとともに、次期プラン 2031 に向けた意見を今期中に取りまとめることが求められている。来期には、次期プランの具体的な策定に関する予定ということになる。本議題について、自由にご意見をいただきたい。

【委員】令和 8 年度は、4 つの基本施策を 2 回に分けて議論し、その後に総論である「生涯学習プラン推進のための 7 つの視点」を最後に扱う予定となっている。この順序は従来の総論を基に施策を検討する流れとは逆であり、その意図を確認したい。

【スポーツと文化部長】この提案の背景として、前回の計画策定時は、総論から議論し各論へ進めた。一方、今回は毎年事業の実績報告をさせていただいたうえで、まず各論を確認し、現状を把握した上で進めることができることが次の 4 年間や後半の方向性を議論しやすいのではないかと考えた。現行のプランの総論部分は委員が議論を重ねたうえで作り上げた重要な部分であり、他の個別計画には見られないものである。したがって、今回は個別施策を丁寧に報告し、コミュニケーションを重ねた後に総論へ戻る流れが議論しやすいと判断した。もちろん、必ずしもこの順番でなければならないというわけではない。

【委員】施策を実施し、その結果を検証しながら、最後に総論に立ち返り、妥当性を確認するという順番で進める方針とのこと、理解した。

【会長】議論の順序は事務局説明のとおりでよいと思うが、仮に施策の 1 を議論する場合、この施策は学習機会の提供が柱になっており、大人・子ども、さらにジェンダー・障がい者・外国人など様々な対象についての意見が出てくると考えられる。施策を議論する際に 7 つの視点に関わる意見が出るのは当然であり、それらを施策の議論の中で出してもよいし、総論の議論に戻った際にも施策で話したことを再度検討してもよく、都度行き来しながら柔軟に議論することが望ましいと思う。その認識でよいか。

【スポーツと文化部長】そのとおりである。

【会長】今期から参加した委員には不明点もあると考えられるため、議題に関係する意見だけでなく、疑問や気づいたことを自由に発言してほしい。

【委員】4 月に施策 1・2 を、6 月に施策 3・4 を、10 月に総論を議論する予定と説明されたが、その議論の内容について確認したい。次期プランに対する議論なのか、あるいは現行施策の中身を掘り下げる議論なのか、具体的に何を行うのか。

【スポーツと文化部長】次期プランに関することは次期委員が担うが、現委員には現行計画をより良くするためのポイントを議論していただきたい。議論の方向性としては、毎年の実績報告を踏まえ、現行施策の成果や課題を丁寧に検証すると同時に、改善案や新しいアイデアを出すことも想定している。例えば、事業が計画どおりに進んでいるか、成果が十分に上がっているかを確認し、必要に応じて「もっとこうしたほうがよい」、「この事業はやめて別の方法にす

べき」といったご提案をお願いしたい。こうした議論の掘り下げが現状の課題を明確化し、次期計画に盛り込むべき方向性や新しい施策のアイデアにつながっていくと考えられる。したがって、現状検討と次期提案の両方をお願いしており、その流れで議論を進めたいとご理解いただきたい。

【会長】市民として事業に触れる機会が多い者は課題を把握しやすいが、そうでない委員には情報が足りないこともある。議論を円滑に進めるため、事務局には事業の進行状況や必要な情報を適宜提供いただきたい。

【委員】今回グループワークを行うと説明があったが、その分け方について確認したい。施策ごとにグループを分けるのか、人数の関係で小グループに分けて複数施策を扱うのか。

【生涯学習課長】基本施策1と2を扱う回では、当日の出席者を4～5人程度の小グループに分けて議論していただく予定である。メンバーを固定するのではなく、都度編成する予定である。各グループは同じテーマで議論し、最後に全体で意見を共有する形式で進める方針である。

【委員】生涯学習に関する市民意識の議論では、三鷹市民の意識を基本としつつ、全国調査や三鷹市の過去の調査との比較も行うべきである。比較資料を収集しつつ、複数の視点から検討することも重要である。

【スポーツと文化部長】東京都全体や近隣市との調査結果の比較は当然行う予定である。また、現在使用している調査項目は長期間同じ内容であり、過去比較は可能だが、時代に合わせた見直しが必要だと感じている。そのため、次回までに他の調査事例や結果を資料として準備し、調査項目の適否についてご議論いただきたい。調査は市役所全体で4年に一度の実施であるため、この機会を逃さず、どの項目が必要か、どのような情報を得るべきかを検討することが重要だと考えている。次回の議論では項目を決定するのではなく、必要な視点や改善案を幅広く出してもらい、その意見を基に調査項目を整理していきたいと考えている。

【会長】この調査では生涯学習活動を定義しているのか。

【スポーツと文化部長】現行の調査では、生涯学習活動が狭く捉えられ、講座を受講することが対象であるかのような印象を与えていると感じている。スポーツ分野でも同様の問題がある。本来は幅広い活動を把握すべきであり、具体例を示して選択できる形式にする必要がある。東京都の調査では複数の活動を選択できる項目を設けている例があるが、選択肢が多いと煩雑になるなど課題もある。調査項目の改善にあたり、回答者の視点も踏まえた意見を委員から伺いたい。まだ方法は決定していないため、幅広い議論を行い、より適切なものを検討したいと考えている。

【会長】国の調査には、具体的な項目を挙げて該当するものに丸を付ける方法と、定義を提示して該当するかを問う方法の両方がある。それぞれに一長一短があるため、その点について議論できるとよい。

【委員】プラン2027について、過去のプランがどのように改善されてきたかを知る方法があるか。

【生涯学習課長】「三鷹市生涯学習プラン 2022」を次回の会議で資料として用意し、ご説明させていただく。

【会長】やはり時系列的を見ていくことは大事である。

【副会長】市民の実態調査に基づく現状把握がプラン策定の基盤であり、アンケートは市民ニーズと市の施策を結び付ける具体的な指針となる重要な要素である。令和4年のアンケートから状況は変わっており、項目の検討が次の施策に大きな示唆を与えるため、委員として意見を述べることに意義と責任と同時に難しさを感じる。

【スポーツと文化部長】責任は事務局が担うため、委員には自由に意見を出していただきたい。アイデアの指標化や他分野との調整等は事務局が行うので、責任を重く考えず、市民が答えやすい質問や、生涯学習審議会として聞くべき内容を中心に議論してほしい。

【会長】事前に事務局と打合せを行い、委員は自由に意見を出し、事務局がとりまとめる方針であることを確認した。今回はプランづくりではなく現行プランへの意見出しが目的であり、委員には積極的に発言していただきたい。

【委員】今期委嘱されて2回目の定例会に参加しているが、分からぬ点があり質問したい。前回の第1回定例会では講座の参加人数や目標達成率などの集計報告があったが、それが前年度プランのまとめだったのか。また、今回の会議で今後の活動予定は理解したが、前回の会議の位置づけはどのようなものだったのか確認したい。

【生涯学習課長】三鷹市生涯学習プラン 2027において、主要事業の達成度を測る指標として12項目のKPIを設定しており、前回の会議ではその実績を報告させていただいたところである。

【委員】令和6年度の単年度実績報告であったと理解した。第1回定例会でKPIの集計方法やまとめ方に課題があることだったが、その課題の修正はこの場ではなく、担当課で行うのか。

【スポーツと文化部長】計画は一度策定すると4年間継続するため、アンケート方法や数値目標設定などはすぐに変更できない。ただし、毎年度の実績報告を確認していただいたうえで、個別課題の議論を並行して行っていただく。そこで出た課題について、改善できるものは日々改善していく、計画の見直しにつながる課題は、次期計画への提言に盛り込んでいただく形で解決を図る。

【委員】今回2期目の参加で、前期は資料を事前に読み込みながら必死に対応していたが、今回は全体像が見え、イメージがつかめようになり、意欲が高まっている。一方で、意見を述べることには緊張を感じるが、事務局から自由に発言してよいとの説明があり、安心して意見を出していきたい。

【委員】今年が1期目で不慣れな状態で参加している。今回、アンケートの「人生を豊かにする」という回答項目を見て、関わることで自分自身の身になるということを改めて実感している。PTA活動について、現状は無関心層が多いが、参加した方の多くは自分自身のためになつたと感じているようだ。満足度調査でいうと、きっかけがなかったり、忙しくて時間がないような人々に関わりを促す工夫が必要だと感じている。生涯学習講座では同じ参加者が多く、新しい層を引き込むのは難しい。今後さらに学びながら積極的に取り組みたいと考えている。

【委員】前回は完成間近のプランに関する議論から参加し、委員としてついていくのに必死だったが、今回は今後の進め方の説明を受け、全体像が把握でき、次は一から取り組む段階であることを理解した。気持ちを新たに頑張りたい。

【委員】私自身は生涯学習や社会教育について専門にしているわけではないが、プランがソーシャルインパクトを意識して策定されているのか知りたい。具体的には、生涯学習の分野だけでなく、三鷹市や社会全体に対してこの計画がどのような影響を与えるのか、そのような視点が本計画に含まれているのか確認したい。また、生涯学習が社会に働きかけることについても、このプランから発信しているのか問いたい。

【スポーツと文化部長】生涯学習は本来非常に幅広いものであり、ソーシャルインパクトを持つものであると考える。現時点での計画が十分にその役割を果たしているかについては議論の余地があり、部分的には実現しているが、まだ達成できていない面も多いと認識している。本計画は三鷹市の生涯学習計画であるため、生涯学習の基盤を踏まえて、市との他施策にも影響を与えるべきという視点は重要であり、そのご指摘は妥当であると思う。今後、この計画がどのようにソーシャルインパクトを持つようにしていくべきか、委員の皆様にご議論いただき、その意見を我々が受け止めて行きたい。

【委員】数値指標が計画に取り入れられているのであれば、その活用方法についても、計画全体を社会に還元する方向性につなげていく必要があると感じている。決して意地悪な意図ではなく、生涯学習センター利用者懇談会でも感じるのは、学んだことが個人で完結してしまい、学びの循環が十分に生まれていないという現状である。特に、学びが社会へどのように還元されるかについての理解が不足していると強く感じている。そのため、本計画には学びの循環を生み出すような仕掛けを、積極的に組み込むべきであると考える。

【会長】生涯学習の推進を通じて、どのようなソーシャルインパクトを及ぼそうとしているかは、計画の内容から明確になってきていると感じている。例えば8ページを見ると、学びと活動の循環による新たなコミュニティの創生といった地域活性化につながる視点が示されており、地域づくりや絆づくりといった点でも方向性が明確だと思う。ただし、本格的にインパクトを評価しようとすると、市との他部局と連携した総合的な取り組みが必要である。生涯学習部門が教育委員会から市長部局に移ったことで、他部局との連携やソーシャルインパクトの実現・測定が、以前よりスムーズに進められるようになっていると感じている。今後はそのメリットをさらに活かし、全体像を想定することが難しくても、地域での効果の可視化や、他部局との連携による成果について部分的にでも見える化していきたい。現時点でも、学習の結果や地域での活動について評価指標が導入されているため、今後さらに地域へのインパクトを測る指標が意見交換の中から出てくるとよい。学びが社会にどのような影響を及ぼすか、常に意識しながら取り組んでいきたい。

【委員】私は今期2年目であり、なかなかついていけない部分も多かったが、多くの学びの機会を提供してもらっていることを実感している。学びが様々な場所で展開されていることを知ることができ、今回のプラン2027の作成に関しても非常に丁寧な取組が行われていると感じている。今後もまだまだ学ぶべきことが多いと考えており、引き続き学習を続けていきたい。

【会長】この場で我々自身が学ぶということも非常に重要であり、その学びが波及効果をもたらし、各自の活動にも活かしていくものと考えている。今後も学ぶ姿勢を大切にして取り組んでいただきたいと願っている。

【委員】私は、住民協議会、いわゆるコミセンから来ている。生涯学習事業情報の秋号に自分

が関わっている活動が掲載されているのを見て、生涯学習に携わっているのだと改めて認識した。ただし、生涯学習とはどのようなもので、どのような位置づけであるのかについては、地域ケアなどの活動も含めて捉えるべきではないかと感じている。そのため、市役所内においても縦割りだけでなく、横のつながりや連携が重要であると改めて認識している。また、コミセンで様々な事業を行う中で、高齢世代の参加は非常に活発である一方、中間世代、すなわち子育てをほぼ卒業したあたりから定年までの世代の方々が忙しく、なかなか参加や委員になってもらえないと感じている。一方、子育て世代や子どもたちは比較的参加してくれているため、その点では活動が広がりを見せており、このように生涯学習には様々な広がりと可能性があると、私自身改めて学ぶことができ、非常に有益であると感じている。まだ十分に整理しきれてはいないが、今後もこのような視点で様々な課題を見ていきたいと考えている。

【委員】スポーツ推進委員協議会から選出されている。スポーツ分野でも同様のアンケートを実施しており、参加人数を増やす方法が課題である。今回の資料を読み、学習分野の分析から多くを学んだ。次回はスポーツのアンケートも丁寧に確認したい。昨期はプラン 2027 の完成で終わったが、今期は意見書作成から関われることを楽しみにしている。

【委員】今期が初めての参加で内容がよく分からなかったところがあるため、プラン 2027 の冊子が余っていれば持ち帰って読んでおきたい。

【会長】ケースに入っている資料は持ち帰ってよいのか。

【事務局】問題ない。

【会長】疑問点は隨時事務局に問い合わせ可能か。

【事務局】可能である。

【委員】私は長くこの場に関わっており、自由に意見を述べることが自分の役割だと考えている。大学で自己点検に携わる中で、報告書作成のための点検にとどめてはならないという思いを強くしており、それゆえ、議論を活性化させ、意味のある点検にするために、積極的な発言は義務であると考えている。遠慮せず率直な意見を出し合うことが重要である。成果や評価についてだが、サービスや資源はすぐに利用される状況になくとも、存在すること自体に価値があると考える。行政事業は営利を目的としないが、成果や評価は求められる。しかし、評価を過度に追求すると「評価のための評価」に陥り、本質を失う危険がある。したがって、評価と本質の両方を見据え、バランスを取ることが不可欠である。時には評価項目の妥当性を指摘するが、評価だけが目的ではないという立場を強調したい。さらに、プラン 2027 から一貫して強調してきたのは、資源や人材を結びつけるコーディネート機能の重要性である。分散した資源をまとめ、運動体として機能させるためには、この機能が欠かせない。次回以降の振り返りでは、このコーディネート機能が適切に働いているか確認する予定である。事前にその点を意識し、議論の準備をお願いしたい。

【会長】ご発言の委員と私は初年度の審議会から委員をしている。長く関わってきた者として、自由に意見を述べることが重要だと考えている。遠慮せず、思いついたことを率直に話してほしい。それらの意見を事務局や委員会全体で取り込み、より良い成果につなげることができる。恥ずかしい、失礼、無駄といった心配は不要である。自由な発言が議論を活性化させる鍵である。

【委員】プラン 2027 は既に始まっており、今後は検証し次の計画に反映する作業が必要である。私たちの主な役割は答申に応えることであるが、現行プランの枠内だけで議論していくは次の飛躍は生まれない。新しい委員の視点や、7つの視点以外で重要と思う点があれば、早い段階で積極的に提案するのがよい。また、行政施策は良い計画を作るだけでなく、市民に説得力を持ち、共感を得て行動変容を促すことが求められる。そのため、文書の中身だけでなく、子どもから高齢者まで幅広い層に届く方法を考える必要がある。中身と伝え方の両面を議論することが重要である。

【会長】施策 1 と 2、次に 3 と 4 を議論する予定だが、これらの枠に収まらない新しい視点が出る可能性がある。その場合は、順番にこだわらず、思いついた時点で自由に発言してよい。理念の視点についても、施策より重要だと感じる点があれば遠慮なく提案してほしい。議論の流れは事務局が示した進め方に沿うが、柔軟に意見交換することが望ましい。

【委員】プラン 28 ページのグラフについて指摘したい。上段の「人生を豊かにしている」という項目を見ると、10 代は半分程度しか豊かにしていないように見える。しかし、下段の回答数を見ると 10 代は N=11 であり、50 代や 70 代は N=143 と桁が異なる。このような場合、有意差を計算しなければ誤解を招く恐れがある。有意差とは、見かけ上の差が統計的に意味を持つかを示すものである。回答数が少ない層を除外せず、プラスマイナス何%の幅を示すことが重要である。そうすることで、より正確な情報が得られる。

【スポーツと文化部長】市民満足度調査では、基本的に有意差の計算は行っていない。これは三鷹市だけでなく多くの自治体で同様である。理由は、市役所全体で調査を実施しており、個別項目ごとに統計処理を追加する仕組みがないためである。私自身、統計を学んだ経験があるので現状には思うところがあるが、現行の仕組みでは難しい。ただし、調査を所管している企画部に提案することは可能であり、改善の余地はあると考える。

【委員】心配しているのは、このグラフを見て「10 代は豊かではない」と誤解し、その前提で議論が進むことである。回答数が少ないと統計的な信頼性が低く、見かけ上の差に意味があるかどうかを確認する必要がある。現状のままでは、プランが誤った方向に進む可能性があるので注意が必要だ。

【スポーツと文化部長】施策に生かす数値を扱う際には、分析を加えることが重要である。グラフの作り方を変えられなくても、分母が少ない場合はパーセンテージ比較に限界があることを明記し、コメントを添えるべきである。そのうえで、若い世代にも「人生を豊かにしている」と感じてもらう施策を検討する必要がある。おっしゃるとおり、数字の見え方に左右されず、ミスリードを避けることが重要である。

【会長】今後、年齢別の比較を行う際には、分析方法に注意する必要があると考える。分母の違いや統計的な信頼性を踏まえたコメントを付けることが重要である。また、10 代や学生層については、生涯学習の定義に学校教育を含めるかどうかで解釈が変わるために、概念の整理が必要である。必要に応じて検証や厳密な分析を行うことも検討すべきである。

【教育部調整担当部長】三鷹市では学校 3 部制を推進しており、学校を生涯学習の場として積極的に活用する方針である。今後、この取り組みをさらに進めることを楽しみにしている。引き続きよろしくお願ひする。

【スポーツと文化部調整担当部長】日々の業務において、今回の議論を振り返りつつ、実務に反映させる必要があると感じている。効果的な政策を市民に届け、行動変容を促すことは非常に難しい。施策を説明しても「知らなかった」という声が多く、情報が届いていない現状がある。今後は、対象者に確実に届く方法を意識しながら取り組みたい。

【事務局】本日示した今後のスケジュールは、新任委員と再任委員が混在する中で、具体的な方向性を明確にするためである。委員が自由に意見を述べられる雰囲気を重視し、遠慮なく発言できる場づくりを進めたいと考えている。率直な意見交換がより良い成果につながると信じている。

【事務局】私は 2027 計画の策定から現在の 2031 計画に向けた取り組みに携わっている。委員の皆さんのが自由に意見を述べられるよう、必要な資料は要望に応じて準備し、共有するつもりである。知識を共有しながら楽しく議論できる場をつくりたいと考えている。

5 報告

事務局より東京都市社会教育連合協議会交流大会の開催案内を行った。

6 その他

次回の日程について案内を行った。

日時：令和 8 年 2 月 3 日（火） 18 時 30 分から

場所：生涯学習センター ホール

【会長】以上をもって、第 5 期三鷹市生涯学習審議会及び第 34 期三鷹市社会教育委員会議第 2 回定例会を終了する。

—閉会—